

本製品（伸銅品）は、固体の金属製品であり、PRTR 法及び労働安全衛生法による SDS の交付を義務付けられた「化学物質」に該当しない。

1. 化学品及び会社情報

1-1 化学品等の名称（製品名）：下表に示す。

合金系	対応 JIS 番号	合金名	対象合金番号	形状	物質の区別
Cu 系	H2123,H3100,H3140, H3250,H3260,H3300, H3510, C3104	無酸素銅(OFC)	CDANo. C10200 C10100 JIS No.C1020 C1011	形銅 板条 棒線 管	単一物質

1-2 会社情報

会社名：株式会社日立金属ネオマテリアル

住所：茨城県土浦市木田余 3550 番地 (〒300-0026)

電話番号：029-826-7429、FAX 番号：029-823-2442

緊急連絡先：電話番号：029-822-2111 (株) 日立金属ネオマテリアル

[更新 2022年5月2日]

2. 危険有害性の要約

2-1 銅

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	分類できない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過酸化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	区分に該当しない	
	健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
		急性毒性（経皮）	分類できない
		急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）		区分に該当しない	
急性毒性（吸引：粉塵）		分類できない	
急性毒性（吸入：ミスト）		分類できない	
皮膚腐食性・刺激性		分類できない	
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性		分類できない	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分 1A	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性		分類できない	
特定標的臓器毒性（単回ばく露）		区分 1（消化器） 区分 3（気道刺激性）	
特定標的臓器毒性（反復ばく露）		分類できない	
誤えん有害性		分類できない	
環境に対する有害性	水性環境有害性短期（急性） 分類できない		

水性環境有害性長期 (慢性)  
オゾン層への有害性

分類できない  
分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ (気道刺激性) 臓器の障害 (消化器)

注意書き

【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
粉じんを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
環境への放出を避けること。

【応急処置】

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

- 3-1 単一物質・混合物の区別 : 1-1 項の表に示す。
- 3-2 化学名 : 合金系及び合金名を 1-1 項の表に示す。  
成分及び含有量 : 下表に示す。
- 3-3 化学式又は構造式 : なし
- 3-4 政令番号 (PRTR 法・安衛法) : 下表に示す
- 3-5 CAS 番号 : 下表に示す

3-2 成分	3-2 含有量(質量%)	3-4 政令番号 (SDS 発行対象物質のみ)				3-5 CAS 番号
		PRTR 法		安衛法		
		0.1% ≤	1% ≤	0.1% ≤	1% ≤	
銅 (Cu)	≥99.99	—	—	379	—	7440-50-8

4. 応急措置

- 吸入した場合 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 汚染された衣類を脱ぐこと。  
皮膚を速やかに洗浄すること。  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 目に入った場合 水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて安易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 速やか口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 眼・皮膚の発赤、眼の痛み、咳、頭痛、息切れ、咽頭痛、腹痛、吐き気、嘔吐。 遅発性症状：金属熱
- 最も重要な兆候及び症状 記載なし

応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。 安静と医学的経過観察が不可欠。
5. 火災時の措置	
消火剤	特殊粉末消火剤、乾燥砂。
使ってはならない消化剤	棒状注水、泡消火剤、二酸化炭素。
特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガス及びヒュームを発生するおそれがある。
特有の消火方法	金属火災に水を用いると水素ガスが発生することがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 金属火災では、密閉法、窒息法消火が望ましい。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置	関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガス、ヒュームの吸入を避ける。
環境に対する注意事項 回収、中和	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源や可燃性物質を速やかに取除く。（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止） 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
<取扱い>	
技術的対策	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 静電気対策を行い、作業衣、安全靴は導電性のものを用いる。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 粉塵、ヒュームを吸入しない。 取扱い後はよく手を洗うこと。 「10.安全性及び反応性」を参照。
接触回避	
<保管>	
技術的対策	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 「10.安全性及び反応性」を参照。
混触危険物質 保管条件	容器を密閉して換気の良い涼しい所で保管すること。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。 混触危険物質から離して保管する。 施錠して保管すること。
容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	設定されていない。
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	

日本産業衛生学会 (2020 年版)  
ACGIH (2020 年版)

設定されていない。

TLV-TWA 0.2mg/m<sup>3</sup> (ヒュームとして)

TLV-TWA 1mg/m<sup>3</sup> (粉塵、ミストとして)

設備対策

製造業者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

気中濃度を推奨された管理濃度以下に保つため、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質：一印は、情報なしを示す。

	無酸素銅
9-1 物理的状態及び色	光沢のある赤桃色の固体
形状	製品形状による
臭い	なし
9-2 pH 及びその濃度	—
9-3 融点 °C	1083
9-4 分解温度	—
9-5 引火点	—
9-6 発火点	—
9-7 爆発特性	—
9-8 蒸気圧	—
9-9 蒸気温度 (沸点) °C	2582
9-10 密度 g/cm <sup>3</sup>	8.94
9-11 溶媒に対する溶解性	—
9-12 オクターノール/水分配計数	—
9-13 その他のデータ (放射性、かさ密度等)	—

10. 安定性及び反応性

安定性

湿った空気にはく露すると緑色になる。

アセチレン化合物、エチレノキシド類、アジ化物により衝撃に敏感な化合物が形成される。

危険有害反応性可能性

酸化剤 (塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩等) と反応し、爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

湿度、混触危険物質との接触。

混触危険物質

アセチレン化合物、エチレノキシド類、アジ化物、酸化剤 (塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩等)

危険有害性のある分解生成物

燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、銅ヒューム。

11. 有害性情報

急性毒性

経口 ウサギ LDLo 120 µg/kg<sup>3)</sup>

皮膚腐食性/刺激性

皮膚に接触すると発赤の症状を引き起こす。<sup>14)</sup>

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 眼に入ると発赤。痛みの症状を引き起こす。<sup>14)</sup>

刺激性がある。<sup>10)</sup>

呼吸器感作性/皮膚感作性

呼吸器感作性：データなし。

皮膚感作性：日本産業衛生学会は、皮膚感作性第2郡（人間に対して恐らく感作性があると考えられる物質）に分類、日本接触皮膚炎学会では分類されていない。

生殖細胞変異原性  
発がん性

データなし。

EPA はグループ D（ヒト発がん性に分類できない物質）に分類されている。

生殖毒性

データなし。

特定標的臓器  
（単回ばく露）

ヒュームは上部気道を刺激する。<sup>13)</sup>

気道刺激性と考えられる。

呼吸器への刺激のおそれ（区分3）

特定標的臓器  
（反復ばく露）

高い気中濃度にばく露された作業員（推定摂取量 200mg/日）に肝腫大が認められた。<sup>11)</sup>

長期又は反復ばく露による肝臓の障害（区分1）

誤えん性呼吸器有害性

データなし。

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性短期(急性)

データ不足のため分類できない。

水生環境有害性長期(慢性)

L(E)C<sub>50</sub> ≤ 100mg/L データが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため区分4とした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

<国際規制>

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

<国内規制>

陸上規制情報

特段の規制はない。

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物

(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

(政令番号 第379号)

## 16. その他の情報 (引用文献等)

## &lt;参考文献&gt;

- 1) Ullmanns (E) (5th,1995)
- 2) 混触危険 Hb (第2版,1997)
- 3) RTECS (2005)
- 4) ICSC (J) (1993)
- 5) Sax (8th,1992)
- 6) Lange (14th,1992)
- 7) Gangolli (1st,1993) vol.2
- 8) Lide (85th,2004-2005)
- 9) SRC (Access on Jul 2005)
- 10) PATTY (4th,1994)
- 11) EHC200 (1998)
- 12) EPA (IRIS (Access on Jul 2005))
- 13) ACGIH (7th,2001)
- 14) 化学物質の危険・有害性便覧 中央災害防止協会 (1992)
- 15) 発がん性物質の分類とその基準第6版 日本化学物質安全・情報センター (2004)
- 16) GHS 分類結果 (住化技術情報センター)
- 17) 日化協「緊急時応急措置指針、容器イエローカード (ラベル方式)」
- 18) 日化協「化学物質法規制検索システム」(CD-ROM) (2005)
- 19) 日本ケミカルデータベース(株)「化学品総合データベース」(2005)
- 20) 安全性 DB (改訂増補版,1997)
- 21) JETOC「化審法の既存化学物質安全性点検データ集」
- 22) 環境省「化学物質の生態影響試験事業」

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者に提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。